



● 「術後の会ご報告」

10月7日（土曜日）午後1時より、定光寺にある千蔵楼にて術後の会を開催させていただきました。日頃外来でお会いする患者様から、手術以後ほとんどお会いしていない方まで、総勢八十名様が一堂に会して楽しいひとときを過ごすことができました。皆様方のお元気を別な角度から見させていただいたのは、我々職員一同非常に喜ばしく、今後の励みにもなりました。

来年も、お元気を皆様方がこの会でお会いできることを、心よりお祈り申し上げます。

心臓血管外科部長

大橋壮樹



● 「この心臓では、もう5年持ちませんよ」と言われたのは、99年の春でした。それでも私は、手術を受ける気持ちになれませんでした。「機械弁に変える手術を受ければ、ワーファリンを一生のみ続けなくてはならない」ということが、手術を避けている一番大きな問題でした。

ワーファリンをのむということに、日本のお医者様はほとんどの方が、「たいした問題ではありません」という言い方をされますが、インターネットで見るアメリカの医療機関のホームページなどでは、「血友病」という言葉を使って、「それは患者にとって辛いことであり・・・」とあって、私にも重々しい問題に感じられました。それに加えて、薬に対するアレルギーが強い自分の体質を考えますと、「きっとワーファリンのアレルギーが出るに違いない」という恐れも強く、ワーファリンをのみ始めるやほどなく蕁麻疹で膨れ上がった自分の体を想像して、震え上がるのでした。

結局、結論は、「どんな苦しみでも、それが自然から与えられたものなら、諦めて心穏やかに受け入れることも出来るが、その苦しみがワーファリンによるものなら、私は、自分の選択を悔いて、生涯を深い後悔と共に終えなくてはならない」ということになり、手術を避けて、心臓は悪化するに任せておりました。

生体弁での手術は全く考えていませんでした。

循環器内科医師からは、もう10年以上前から機械弁置換を勧められていましたが、生体弁の話が出ることはなく、医学雑誌にも、97年秋頃のものですが、「生体弁機能不全は7～11年の間に生じることが多い」と書いてあり、九十九年春、私が見ていたアメリカの医療機関のホームページでも「生体弁は妊娠の可能性のある若い女性が老人に使われる」とありましたので、私が選ぶ道は「機械弁置換手術をする」か「しないか」二つに一つと考えておりました。

今年に入ってからは、家事をするのが精一杯で「自然死」を受け入れる覚悟で暮らしていても、どこかでまだ「助かりたい」とも願うような心境でおりました。

初夏に心内膜炎らしき熱が出始めたときは、「これで私の人生も終焉を迎えるのかもしれない」という気持ちにもなりましたが、この熱がまさか大橋先生との出会いに繋がるとは・・・何の熱かと訝りながら、ご近所ではありますが、始めて訪れたHクリニックでした。そこで「すごい心臓ですね、手術はしないのですか」という話になり、「したいのですが、決心がつかないのです」と言いますと、「素晴らしい人を知っていますので紹介しましょうか」と大橋先生の話がされたのです。お話を伺って行くうちに、「この先生に手術をお願いしよう」という気持ちになって、その場ですぐに紹介状を書いていただきその日のうちに名古屋徳洲会総合病院にやってきました。

大橋先生にお会いし、私が「手術をしなければと分かっているけど、機械弁置換手術をしてワーファリンをのみ続けるのも辛いのです」と話しますと、思いがけず「生体弁にしましょう」とおっしゃったのです。驚きました。生体弁はここ数年大変改良され、9割の人が、10年、6割の人が15年ほど持つようになってきているというではありませんか。初耳でした。ということは、これから私が使用する生体弁は、それ以上の年数も期待できるという希望があるのです。生体弁ならワーファリンをのまなくてもいいのです。目の前がぱっと明るくなった瞬間でした。

再手術が必要であっても「日々の生活のクオリティが大切ですから」ともおっしゃって、こういう考え方をされるお医者様に会ったのも初めてで、心が救われる思いが致しました。

ほかにも、手術に際しての分かりやすく納得できる説明、何を質問しても的確に答えていただけますし、クリティカルパスの導入、術後2週間の退院など、目を見張るものでした。

生体弁置換手術を受け、退院して1週間、私の体調の方は貧血が強いこともあって、「あー良くなった」という実感は残念ながらまだないのですが、一番悪いところを治して頂いたのですから、気長に回復を待ちたいと思っております。そのほか、ここに書ききれないほど感銘することの多い入院生活でした。



- 季節も秋に移り退院して早くも2ヶ月が過ぎようとしています。入院中は大勢の方々のお世話になり本当にありがとうございました。大橋先生からバイパス手術の話聞いた時は動揺を隠せず、田崎婦長さんや四階南病棟の皆さんに大変心配をおかけしました。沢山の友達から勇気をいただいて無事手術を受け元気になる事が出来ました。主人や周囲の人達に以前より顔色が良くなったと言われ鏡を覗いて見る毎日です。手術をして下さった方々、大橋先生、坂本先生、スタッフの皆さん、そして昼夜を問わず見守って下さった集中治療室の皆さんと四階南病棟の皆さんに心より感謝申し上げます。それに手術を受ける迄のリハビリを指導して下さった野尻先生ありがとうございました。それと高額治療給付、障害者の手続き等々何も知らない私共に親切に教えて下さった地域医療部の細木さんありがとうございました。本当に助かりました。胸の激痛で主人に頼み病院へ、そして急性心筋梗塞と診断され、カテーテル治療、冠動脈バイパス手術と長い悪夢を見ているような夏でした。今では入院生活を懐かしく皆さんの顔を思い出して居ります。私が手術室に入ってから出る迄七時間だったと主人に聞きました。手術の時は勿論の事、手術以外の毎日もお忙しい日の連続で不規則な毎日だと思います。大橋先生、坂本先生、そして皆さんお身体大切にこれからも元気で活躍くださいますよう心からお祈り致します。私も主人との生活を大切に暮らして行きます。最後に毎日欠かさず2回3回と病院に足を運んで私の事を気遣ってくれた主人に心から感謝しています。



- 大橋先生お早うございます。今朝も歩きに行つて参りました。車の人たちが元氣になれて良かったとそれぞれに声をかけて下さいます。どうも先生、良かったと吾子の様に喜んで下さいます。私の様な老いた者に生きた事を祝福して下さい頭が下がります。服部先生から手術を宣告された時はドキッとしてもう死んだ様に思いました。年だから声も出ませんでした。後この世にいるのは幾日かと、まだお目にかかった事のない先生に全面的にすがりました。助けて下さい、まだ私は年こそ大きければとする事が山程残されているから死ぬ事は出来ない。主人の許へは行けない。第一詩吟の会員達の面倒をみて美寿喜の後人を創らなければならぬ重大な仕事が残っている。今は亡き家許に申し訳ない。私を力に新聞バイト従業員たち、新聞の仕事、俳句の会、お花の会、お茶の会、短歌の会、どうしよう、今死んでしまったら・・・と夜も眠れなかったのです。心臓が悪くなるから手がふるえて第一字が書けない、もう一度良くなりたいたい、と思っていました。徳洲会病院に行く事は子供達始めみんな一同が勤めてくれました。でも私はどうせ死ぬならこのまま死のうかと色々考えましたが、子供等の強い気持ちに動かされて入院すると心に誓い、まだお目にかからぬ先生にもう一度生かして下さいと手を合せ心に祈りました。自分が考えたよりもずっとずっと大先生で、優しくとても良い先生、坂本先生も婦長さんも良い方たちばかりでやっと生かされる勇気が出て来ました。笑の出来る私に子供達は喜んでくれました。手術も恐れた程でもなく早く元氣になれて安心致しました。本当に大橋先生、坂本先生、優しく技術最高の良い先生です。永年苦しんだ心臓病もいっぺんに良くなり毎日たのしい日々を送っています。又、詩吟教室も始めています。萩原の大会にも行く事が出来、会員も大喜びでございました。有り難うございました。

- ・ 隆太郎 (愛犬) 生きて来たら又逢おう
- ・ 幸せに長く生きよと ワンとなく
- ・ 傷きの吾をなぐさむ 白百合の香も清き 朝の玉つゆ
- ・ まるやかにほほを 撫で行く涼風に 今日の手術の無事祈る
朝明けてふる里の峰 遠けれど 今日の手術に幼な日想ふ
- ・ 生ありて もっと此の世に 願いあり 永遠の別れと ならずに済みて
- ・ 雨蛙窓にへばりて 吾れ見舞う
- ・ 吾が花だん 最後に植し幼な菊 背丈をこえて 元氣に咲いて



- 年も若く、1人者という事もあるでしょうが、手術に対して不安、恐怖等私は有りませんでした。私は決して気丈な人間ではないですが、術後の自分の体への期待+家族や仲間のサポート、これが手術に対して私に「攻め」の気を持ち続けさせてくれたのではないかと思います。1ヶ月の間に大動脈弁の手術を2回。術前、術後とも楽ではないが、特に辛い事も無し、むしろ以前腰椎間板ヘルニアの手術をした時の方が・・・あれは辛かったです。不安になったり、考えたりする事も有りました。「身障者手帳」の申請、本当に悩みました。色々な面で・・・十年後それ以降の自分の身を考えて・・・。ポジティブに考えれば不安も薄らぎます。これからの人生、強く生きて行く為失う物もある、受け入れなければならない事もある。人間生きていけば当たり前な事ですから。手術後10日、退院してペンをもち文を書くまで回復しました。先生、看護婦さん、その他部門のスタッフの方、色々とお迷惑おかけしましたが、おかげ様で順調に回復しています。本当に有り難うございました。



- 私は2年胸の痛みのため3軒の医者に診てもらっていましたが、心臓が悪いと言われた事はありませんでした。3月29日徳洲会病院に来てカテーテル検査の結果3本の血管が100%つまり居る事が判り、入院、大橋先生にお世話になりました。手術の結果順調に快復し、何の不安もないまま今では元氣で日々頑張っています。心臓の手術、考えただけでも何とも言い表すことも出来ない心境だった自身、終われば胸の痛みもなく今では大橋先生を始めスタッフの皆さまに感謝でいっぱいです。大橋先生に巡り逢わなかったなら此の世にいなかったかも知れません。思うだけでも身のふるえる思いです。此のすくって頂いた命を心臓で苦しんでいる人々に伝えていく気持ちでいっぱいです。又、医療費も身体障害者の手続きをしていただいてこんなありがたい事重ねがさ感謝致しております。手術前の自分の思っていた事や不安等ははずかしい思いです。大橋先生、いつ迄もお元氣で居られる様健康と御多幸を日々祈りつつ。ありがとうございました。



- 22年前の5月の日曜日に始まった異様な胸の苦しさに朝6時頃目覚めた。その時は10分程で治まったが、それまでに経験したことのない痛みで不吉な予感がありました。その日の朝10時頃お茶を飲んでいる時に強烈な発作に見舞われました。胸の真ん中あたりを中から物凄い力で握りつぶされるような苦しさでした。日曜日でしたので近所の方や会社の方々、兄弟達のおかげで夕刻にやっと春日井市民病院へ入院することができました。しかし当時の治療はとにかく安静にして点滴を続けるだけでした。心筋梗塞と心電図で分かっています。そのため死亡率は相当に高いものでした。私は幸いにも3ヶ月ほどの入院後、11月に職場復帰することができました。それから15年、冠動脈の狭窄が徐々に進み、狭心症が出るようになり、徳洲会の古高先生の治療を受けるようになってから、血管造影、バルーン、バイパス、ステント挿入など、最新の手術を受け、昨年には大橋先生により2回目の手術を受けることができました。両手、両足の血管を心臓に使った今後は、適度な運動と休養に心掛け、一生大切にしていきたいと思っています。